



2

ある日^ひ たろうくんはお母さん^{かあ}の スマホ^{すまほ}を使って^{つか}
大好きな^{だいす} 動画^{どうが}を 見て^みいました。

(たろう)

「やっぱり 動画^{どうが}は おもしろいなあー！
もうずっと 動画^{どうが}を 見て^みいるけど やめられないよ。」

すると突然^{とつぜん} スマホ^{すまほ}が ちがう画面^{がめん}になりました。



3

(たろう)

「あれ？ 何もなにしていないのに 画面ががめん 変わかっちゃった！

なになにに 欲ほしかった ゲームげーむが もらえるの!?

このボタンぼたんを 押おせば もらえるのか！

よし 押おしてみようー！



4

たろうくんはずっと欲しかったゲームがもらえると思つて
とてもうれしくなりポチッと画面を押さつたよなよ...

(サイベアー)
さいべあー

「ちよつと待つてー!」

どこからか声が聞えます。

たろうくんがキョロキョロと...
きょろきょろ



5

♪ピカーツ!!
びかーっ

突然 とつぜん スマートフォンが すまーとふぉん 光り出して ひかだ 画面から がめん

かわいらしいクマが くま 出てきました!
で

(たろう)

「わあ！ きみはだれ？」

さいべあー
(サイベアー)

さいべあー
「ぼくはサイベアー！」

みんなが たの 楽しく すまほ スマホを つか 使う てっだ お手伝いを して しているよー!

さいべあー サイベアーは げんき 元気に あいさつを しま しました。



6

サイベアー
(サイベアー)

「たろうくん それはにせもの かもしれないよ！」

知らない人が ゲームを くれるなんて おかしいよ！

だまされて 名前や おうちの場所を 教えると

だいじなことが 悪い人に 知られちゃうかもしれないよ！」

(たろう)

「悪い人に 知られたら どうなるの?」

サイベアー
(サイベアー)

「悪い人に 大事なことが 知られちゃうと

悪い人が おうちにきたり 大事なものを とられたりして

こわい目にあうかもしれないよ。」

たろうくんはびくへり。

(たろう)

「じつは…じゃあどしどしすねばいいんだろ?」



サイベアーはにっこりして教えてくれました。

(サイベアー)

「たろうくんが あぶない目^めにあわないための
『魔法のことば』を 教えてあげるね！」

(たろう)

「魔法のことば？」

(サイベアー)

「インターネットを 楽しく 使う 魔法のことば！
それは「あらのおしり」だよ！」

(たろう)

「「あらのおしり」？」



サイベアー

(サイベアー)

「それじゃあおしえてあげなね。」

「あーのおっこのー」

～ ひらがながよめる子は一緒に言ってみよう～

「まったら おうちのひとに いまじよう

きみが インターネットを 使っていて

なにか 困ったことがあったら

すぐにおうちの人に 言おうね。」

もしきみが ないよにしたり うそをついたりすると

おうちの人は 君を たすけて あげられないよ。」

しかられるかな と思うかも しれないけど

言わないともーっとしかられちゃいけませんよ。」



9

サイベアー
(サイベアー)

「**じゃあ**らのおじいのおー！」

あまごいじいばは あぶなごよ

『好きなものを 食べに行こうよ』

『好きなものを 買ってあげるよ』

とっっても 行ってみたいし ほじいよね。

でも 本当は うそをいって 君を 心配いまして

あぶなごいじいあむおやめいじいおじいのおかもしねなごよ。」



(サイバアー)

「じゃらのおじのらー！」

らんぼうじとばは ーじろじーらんぐがわ

インターネットをつかうと 本当^{ほんとう}に 会^あわなくても
遠^とくに^おいる お友^{とも}達^{だち}と おはなしをしたり あそんだり できるよ。

(幼稚園・保育園・学校)で お友^{とも}達^{だち}と あそぶのと ちがつて

お顔^{かお}が 見^みえなくても 画^が面^{めん}の 向^むこうには
本^{ほん}当^{とう}の お友^{とも}達^{だち}や 誰^{だれ}かが いるんだよ。

だから お顔^{かお}が見^みえなくても らんぼうな ーじとばや
いじわるな ーじとばを 言^いったら お友^{とも}達^{だち}を 傷^{きず}つけちゃう。「

(たろう)

「言^いったほうも 言^いわれたほうも ーじろじーらんぐがきを
され^かた^なみたい^きに 悲^{かな}しい^き気^も持^もち^もにな^なっ^ちゃ^うん^だね。」



11

さいべあー
(サイベアー)

「「あらのおしりののー！」

のせないで おなまえ おうちはおしえない

がめん あいて
画面の相手はだれかわからないよね。

だから おなまえや おうちを 伝えちゃ いけないよ。

あ き
会いに来たら わるい人につれていかれちゃうかも
しれないよ。」



サイバアー
(サイバアー)

「じゃあのおっこのおー！」

おやくそく おうちのルールはまもろうね

インターネットを 使っていると 楽しくて
やめられなくなっちゃうよね。

でもずっと 画面を見ていると 目や 体が 疲れちゃうよ。

ひるま 幼稚園・保育園・学校で
昼間

ねむたくて あそべなくなっちゃうよ。

だから おうちの人と 決めた ルールは まもって 使おうね。



サイベアー
(サイベアー)

「じゃあのおしりのしー！」

知らない人とはやりとりしない

画面の向こうにいる人の顔がみえないから

どんな人がわからないよ。

やさしい人のように見えても悪い人かもしれないよ。

だから知らない人とはお話ししないようにしよう。



サイバアー
(サイベアー)

「うちのおしりのりー！」

リアルと ネットは いっしょだよ

リアル っていうのは 本当とか 本物 っていうことだよ。

たろうくんは おうちの人や 先生から

お友達に いじわるなことや いやなことを しちやいけないって
言われたことはないかな？

知らない人について ちやいけないって 言われたことはないかな？

(たろう)

「お友達と 遊ぶときとか お外に 遊びに行くときに 言われるよー！」

(サイベアー)

「インターネットの世界も おんなじで いつも みんなが

注意されていることは インターネットを 使うときも

気を付けないといけないよー！」



サイベアー
(サイベアー)

「「あらのおしり覚えてくれたかな？」

(たろう)

「なるほどー！これからは気をつけるねー！」

たろうくんが 元気よく答えると サイベアーは

画面の中に帰っていきました。

サイベアー
(サイベアー)

「魔法のこぼを 大事にして

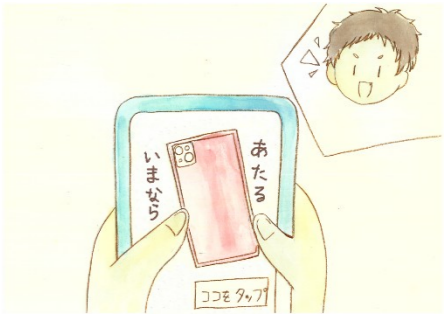
楽しくインターネットをつかってねー！」

すこし間をおく

それから 何日かたちました。

たろうくんは 時間を決めて

スマートフォンを使うようになりました。



16

(たろう)

「あれ？ また急に画面がかわったぞ。」

やったー！

あたらしいスマートフォンがもらえるの!?!

たろうくんはうれしくなって画面をポチっと

押し間違えましたか…?



そのとき たろうくんは

ふとサイベアーの「さいべあー」を おも 思い出しました。

(たろう)

「…その「さいべあー」は『お』の「お』」

おし 教えてもらったな…。

かっさに お 押すのはやめてお「お」

たろうくんは ちゃあんと さいべあー の「お」ばを

おぼ 覚えていたのです！

「お」して たろうくんは

あぶない目めに あ 合わずにすみました。



みんなもインターネットを使うときは

「ごあらのおいし」で気をしげようー！

最後に みんなで 言ってみようー！

せーの 「ごあらのおいしー！」

おしまっ。



※ 埼玉県コンピュータ・ネットワーク防犯連絡協議会、埼玉県警察
※ 埼玉県警察サイバー学生ボランティア、秋草学園短期大学

「いぬからのおしり」

インターネットを安全に楽しもう！

1

制作 埼玉県「コンピュータ・ネットワーク防犯連絡協議会、埼玉県警察

作・画 埼玉県警察サイバー学生ボランティア・秋草学園短期大学

みんなは スマートフォンや タブレット ゲーム機で

楽しく 動画をみたり 遠くに 住んでいる人と

電話で お話したことは あるかな？

「反応を待つ」

そうだよね こんなに 便利で 楽しいのは

インターネットという 見えない 糸に つながっているからなんだ。

スマホや タブレットは とっても たのしくて

ずっと やっていたら 思うよね？

でも インターネットは 楽しい だけじゃなくて

「わくわく あぶない」 ともあるんだよ？

これは スマホや タブレットを 使うときに

みんなが あぶない目に 合わないための

魔法の言葉を 教えてもらう お話だよ。

それじゃあ はじまり はじまりー！